

## 地域医療の

## 中核施設を

## 目指して

旧大川郡西部5町の合併による「さぬき市」誕生に伴い「大川総合病院」が「さぬき市民病院」と生まれ変わり、10年の月日を経た平成24年1月30日、悲願であった新病院での診療が始まりました。

新病院は、旧施設の大部分が建築後40年余を経過して耐震性に問題があるとともに、老朽・狭あい化により、提供する医療の機能低下を余儀なくされていたため、同一敷地内で改築したものです。

さぬき市民病院は、地域住民の皆さんの保健・医療・福祉に寄与することを使命とした地域医療の拠点として、また、地震などの大規模災害時に

は地域の災害拠点病院として機能しなければなりません。そのため、新病院は、最先端の医療設備を備え、建物には免震構造を採用して、安心と安全を確実に提供できる施設となっています。

さぬき市は、高齢化率29%超と高齢化が急速に進む地域であることから、新病院は、高齢者に配慮した施設づくり、また、入院患者さんから選ばれる療養環境の提供を目指して整備されました。

4階建ての鉄骨造で、床面積は14,884㎡、病床数は旧病院よりも20床減の179床（一般175床、感染症4床）で、1床当たりのスペースは従来のは1.3倍の約8.3㎡を確保しました。また、患者さんからニーズの高い個室は、半数近くの85床としました。退院前にリハビリを中心として療養する亜急性期病床は16床を用意し、退院後に日常生活をスムーズに送れるように指導して、在宅の療養をイメージできるよう

に工夫しています。

外来部門では、案内表示システムや自動精算機などを新たに整備し、患者さんの利便性を向上させています。

現在、新病院建設事業最後の工事である来院者の駐車場整備を、旧病院を取り壊した後の用地で行っておりませんが、これが完成するまでは、病院から離れた場所に駐車していただくなど御不便をおかけします。この工事は今年秋ごろに完成し、病院前に十分な台数分を確保できるものと考えておりますので、今しばらくの御理解、御協力をよろしく願います。

私たち職員350余名は、今後とも、周辺医療機関との連携を深め、地域医療の中核施設として、地域住民の皆さんの期待に応えられるよう一丸となって努力してまいります。

さぬき市民病院

経営管理局長

山下 博史